

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092000037		
法人名	医療法人裕紫会		
事業所名	グループホームあがら花まる	【ユニット名:あがらユニット】	
所在地	和歌山県御坊市藤田町藤井2118番地6		
自己評価作成日	平成28年2月28日	評価結果市町村受理日	平成28年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

落ち着いた環境の中で、利用者様が穏やかな生活を送れるよう支援している。また、グループホームに入居しても、季節に応じたいろいろな場所に出掛け刺激のある生活が送れるよう支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3092000037-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成28年3月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型複合施設「あがら花まる」は地域に密着した施設として地域の認知症高齢者の暮らしを支えている。近隣の住民を巻き込んで開催されている「あがら花まる」の夏祭りは、地域に溶け込んだ行事となっていて、回を重ねるごとに大勢の人が訪れるようになっていく。地域密着型複合施設内にある「グループホームあがら花まる」では、利用者が生活の中に変化のある楽しみを見いだせるよう、現在は特に外出支援に力を入れ、水族館見学、梅ジュース作り体験など、利用者が日頃行きにくいところへも月に1度は出かけられるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に、職員全員で施設理念、行動指針を黙読し、共有を図っている。また、随時ケアの見直しをする際に、理念と行動指針に則り見直しをしている。	行動指針をもとに一人ひとりの職員が一日の振り返りの時を持ち、理念の共有、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	職員は地域の行事に積極的に参加し地域に溶け込むよう努めている。施設の夏祭りでは、地域住民が多数来て、地域の夏祭りとして盛り上げている。地域行事への参加は現状限られた利用者しか行っていない。	地域密着型複合施設「あがら花まる」として地域の班に所属しており、地域の活動であるゴミ拾いに職員が利用者と参加するなど、地域住民と交わることが認知症への理解を得ることに繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は積極的に地域に出向き、あがら花まるの事や、認知症の理解を深めてもらえるよう努めている。近隣の小学校には、毎年サポーター養成講座や車椅子体験の授業に関わり理解を深められるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、施設の困りごとや現状の報告を行っている。その都度運営推進委員から助言を頂き、課題の解決に活かしている。	複合施設全体で近隣にある地域のコミュニティーセンターで行っている。多人数の出席者からの意見が聞けるよう、施設見学、利用者と一緒に昼食などの交流や、グループワークなどを取り入れて、工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に市役所に出向き、現状における課題等を報告し行政との連携を図り、協力して頂けるような関係作りに努めている。また、運営推進会議の場でも積極的に行政側からの意見を頂きケアに活かしている。	市役所の担当者と、こちらから出掛け相談している。また、行政の施策にも協力するほど、介護について信頼関係にある。事業所の夏祭りにも参加してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を実施し、身体拘束に関する知識を深め、実際の現場において、身体拘束にあたるような言動がないか振り返りを行っている。また、適宜外部研修への参加も行って	知らず知らずに言っている言葉の拘束を気付いた時お互いに注意しあうようにしている。利用者が不穏な時には、介護の仕方を振り返り適切な声かけを心がけて改善につなげている。職員のストレスケアも絶えず表情などから見つけ行うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を実施し、虐待に関する知識を深め、実際の現場において、虐待にあたるような言動がないか振り返りを行っている。研修ではグループワークを行い、各自の意見を出し合い、ケアの向上に努めている。		

【事業所名】グループホームあがら花まる【ユニット名：あがらユニット】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する内部研修を行い、また外部研修にも参加し、全職員が知識を習得出来るように努めているが、全員が制度を理解するには至っていない現状である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される前には、ご家族に契約書及び重要事項説明書を用い、ゆっくり時間をとり説明と同意を得ている。その際不明な点や疑問点等あれば丁寧に説明を行い、新たに疑問点があればその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から意見や要望が職員に伝えやすいような関係性を築けるよう心掛けている。また、ご家族様の面会時やお電話を掛けた際にも、些細な事でも意見や要望を言って頂けるよう配慮し改善に努めている。	利用者、家族の話しに耳を傾けて、話しやすい関係づくりをしている。意見や要望を聞けるよう、些細な内容でも家族と共有することを積み重ねて信頼関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回、職員面談を行い、現場職員の意見や要望を提案出来る機会を作っている。また、日頃からもそういった意見や提案を言えるようコミュニケーションを図り、運営に反映させられるよう努めている。	日常の業務の中でも話しやすい関係を作り、現場の責任者が、職員から出された意見を取り上げて、必要に応じて会議等で検討し運営に反映できる体制が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が日常の業務や利用者の支援を行う上で、やりがいを持って仕事が出来るよう配慮し、給与水準も適宜見直しを行っている。職員の中にはストレスを抱えている者もいる為、ストレスケアが今後の課題でもある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTとOFF-JTを活用し、職員が育つ環境づくりに努めている。また、新人職員には中堅職員を教育係としてつけ、互いに向上できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じ、他事業所の職員と交流を図り、自施設のサービスの見直しを図っている。また、実習生を積極的に受け入れ、意見交換を図り、質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してからしばらくの間は特に、本人からの不安や悩み、要望を聞き取る事に時間を費やし、不安の解消や、安心してもらえる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から不安や悩み、要望を聞き、負担の軽減を図りつつ、本人が入居してからも安心した生活が送れるよう支援していく事を伝え、家族との信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時には、今まで利用していたサービスや自宅での様子、活用していた社会資源などの聞き取りを行い、入居してからも今までと同じような生活が送れるよう可能な限り努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、グループホームで働くにあたり、利用者と同じくあがら花まるの生活者である事を認識し、暮らしを支えあう関係性を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いに寄り添い、ご家族とその思いを共有しながら、本人を支え、安心して生活が送れるような関係作りに努めている。またご家族にも定期的に面会や外出、外泊支援をしてもらえるよう働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も、出来る限りご本人と馴染みの関係にある方々に来て頂いたり、行きつけの場所へこちらから出向けるよう支援している。	利用者の気持ちを大切に、行きつけの美容院や喫茶店に出かけることを続けられるよう支援している。施設内での馴染みの関係にも配慮しており、デイサービスに馴染みの友人が来たら出向く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう、日頃から職員が関わり、他の入居者と関わりが持てるよう配慮している。また、利用者同士の関係性を把握し、トラブルが起きないよう事前に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、今後について気軽に相談できるよう関係性を築いている。また、退院後の受け入れ先の相談についても、適宜相談援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のカンファレンスを通じ、利用者一人一人の意向を職員間で確認し、共有し合い、ケア方針の継続及び変更等の検討会を実施している。意向調査に関しては、日々の関わりの中で随時行っている。	利用者の言葉や表情の中から思いを汲み取れるよう接している。日々の記録に利用者の言葉や様子を記録して職員間で共有し、支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、本人とご家族より今までの生活歴や馴染みのある物、生活環境等伺い、センター方式等を活用し職員間で情報の共有が図れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方や心身状態、有する能力について記録し、職員間でその情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、一人一人のモニタリングを行っている。その情報を基にカンファレンス内で職員間の情報の共有を図り、現状に即した介護計画を作成している。また、本人や家族の意向も随時伺うようにしている。	利用者や家族の希望を聞いて計画を作成している。一人ひとりの状況を把握し3ヶ月毎に計画を見直している。利用者の状態が変化したときには、その都度職員で話し合い変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の状態について日々記録し、今必要としているケアは何かを把握し、職員間で統一したケアが出来るよう努めている。また、利用者によっては、24時間シートを活用し、状態の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々における状況を把握し、柔軟な対応が取れるよう相談及び支援を行っている。あがら花まる3事業所の特色を活かし、花まる全体で利用者を支えて行けるよう努めている。		

【事業所名】グループホームあがら花まる【ユニット名：あがらユニット】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前からの地域資源が、継続して活かせるように努めている。また入居後新たに必要となった支援について、新しい資源を発掘し、利用者が安心して暮らせる場であるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	元々のかかりつけ医に入居後も診て頂けるようにご家族には説明している。また、状況によっては、かかりつけ医に往診して頂けないか相談し、その方との関係性が途切れないう努めている。	以前からの、かかりつけ医を継続できるよう支援し、往診も行われている。家族での受診ができない時は職員の同行支援も行っている。市の検診も家族の協力で受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	花まるの他事業所の看護師に状態について相談し適切な医療が受けられるよう連携を図っている。また週1回訪問看護の看護師が来て、一人一人の健康状態をチェックし、必要に応じて主治医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日頃の生活の様子を病院側に伝え、利用者の環境の変化による混乱を軽減出来るよう情報提供を行っている。また入院当初より、ソーシャルワーカーや適宜医師と連携を図り、早期退院に向けた話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時と適宜、ご家族とは看取りについての意見交換を行っている。本人の最期をどのような形で看取るか、本人、家族、医師、看護師と協働してチームで支援するよう努めている。	入居時に看取りについて事業所の出来ることを伝えている。状況に応じて家族と話し合い、利用者の思いに沿えるよう、職員、かかりつけ医、看護師で協力し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応について内部研修を実施している。又、そういった際に適切な判断が出来るようマニュアルを整備し、フロー図も作成している。しかし、中には急な出来事に対し不安を抱えている職員もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を実施している。また、今年度については、近隣の幼稚園と合同で避難訓練を実施したり、南海トラフ(3連動)の地震を想定した避難訓練(高台への避難)も行い、新たな課題も見つかった。	近くの保育園や地域住民と共に利用者全員参加の津波の防災訓練を実施した。実際に行ってみて、避難経路を分散するなど、新たな方法も見出された。	

【事業所名】グループホームあがら花まる【ユニット名：あがらユニット】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修で、実際の現場を振り返り、人権の尊重及びプライバシーの保護は出来ているのかを振り返り、グループワークを通じ配慮に欠けていた面については、見直し改善に取り組んでいる。	利用者の思いを大切に、不適切な言葉かけが無いよう気をつけている。失禁時の対処など、羞恥心に配慮して行っている。トイレの入り口には鍵がなく、便器の部分がカーテンで仕切られている。	安全面に配慮しつつプライバシーを守り、利用者が鍵を掛けてトイレを使用できることが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、日々自己決定が行えるよう働きかけている。また、意思表示が難しくても、本人の思いをくみ取り、希望を表したり、些細なことでも自己決定が出来る可能性がないか探るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムや意向、生活歴等を把握し、その人らしい日常が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の利用者にあった身だしなみやおしゃれ、服装で居られるよう、ご家族にも協力していただきながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者の嗜好を聞き、またはその日に食べたい物を聞き、好みの物が食べられるようにしている。食材の買い出しも、出来る限り利用者と共に出向き、食材から季節を感じられるよう働きかけている。	必要な場合は職員が介助し、利用者だけで食事をしている。テレビが見える位置にいる人は少ないが絶えず音声が流れており、食事を待つ時や食後も会話が無く静かに座っている利用者が多い。	休憩時間やスペースの都合もあるが、職員と一緒に会話する中で食事を楽しめる工夫が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じて、量の配分を調整したり、健康状態にも気を配りながら、バランスよく栄養が摂れるよう支援している。また、その人の能力に応じた食事形態や道具を選び提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性について認識し、一人一人に応じた口腔ケアを行うよう努めているが、中には支援が困難な方に対する口腔ケアが十分に出来ていない場合もある。		

【事業所名】グループホームあがら花まる【ユニット名：あがらユニット】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄のパターンを把握し、その方のリズムに応じ排泄が出来るよう声掛けや誘導を行っている。可能な限りトイレやポータブルトイレでの排泄が出来るよう支援し、極力おむつの使用を減らしている。	利用者の排泄パターンの把握により日中はトイレに誘導している。自立に向けた支援の中、自分でパッドを交換する利用者や、夜間はポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食べ物や乳製品、オリゴ糖、野菜ジュース等摂ったり、水分を多く摂るなど、下剤に頼らず自然排便が出来るよう働きかけている。また、運動支援も取り入れるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々のリズムに合わせ、入浴出来るよう支援している。介助なく一人で入浴している方も居り、その方の能力を把握し、その為に必要な準備を職員が行っている。希望に応じて毎日の入浴支援は出来ていない。	一人ひとりの利用者に合わせて2日に1度入浴できるよう支援している。入浴を嫌がる利用者も工夫した声かけで3日に1度は無理なく入浴できている。必要な場合は入浴リフトを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間快適な睡眠がとれるよう、居室内の環境(温度、湿度、音、光等)に配慮している。また、日中もその方の状態に合わせて、休息出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服薬している薬の情報を一人一人シートにまとめ、いつでも職員が確認できるようにしている。薬について疑問があれば、その都度医師又は薬剤師に確認している。薬は一包化し誤薬が起こらないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で利用者の能力に応じ、それぞれ役割をもって生活を送ってもらっている。また、施設のイベントや地域の行事、季節に応じた外出支援を行い、非日常的な楽しみのある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は、近隣に散歩に出掛けたり、近くのお店に出掛けるなどしている。非日常的な外出支援では、遠方に梅ジュース作りの体験に行ったり、海南の自然博物館に出掛けたり、稲村の火の館に出掛けるなど多岐に渡り取り組んでいる。	食材の買い物や区の清掃などの暮らしの中での外出、馴染みの美容室や喫茶店への個人的な外出も行われている。日常以外の体験を楽しめる外出支援にも力を入れ、職員間で意見を出し合い企画して行っている。	

【事業所名】グループホームあがら花まる【ユニット名：あがらユニット】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持している利用者は現在1名である。その方が支払いを行う際には、自己にて出来るよう職員が見守りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの訴えがあった際や、職員側から家族に電話で話が出来るよう働きかけたりしている。また、遠方のご家族にも、定期的に電話をして本人の様子を直に聞いて頂けるよう働きかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、適度に光が入り、木のぬくもりを感じられる空間となっている。共用スペースは広くはないが、利用者同士や職員とも距離は近くなり話し易い。またすぐ傍にキッチンがあり、料理の匂いも感じられ良い刺激を受けやすくなっている。	グループホーム部分の共用空間は狭く、トイレも1ユニットに1カ所しかないが、施設全体の共用空間も活用されており、玄関には季節の花が活かされており、広い空間に雛段が飾られているなど、季節を感じられる工夫がある。	居室の前の廊下部分にも装飾品や、観葉植物などの配置などを施し、利用者の居住空間に彩りが添えられることが望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は狭く、普段過ごされる場所以外で居場所作りは困難な状況であるが、施設全体としては色々な場所へ行く事が出来、独りになりたい時は居室で過ごしたり他の場所へ行き、独りになれる時間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご家族から現在のお部屋の状況を伺った上で、グループホームで今後本人が生活を送る上で、必要と思われる品々を一緒に考え、その方に合った居室の環境作りを行っている。	各部屋にクローゼット、洗面台が設置されている。利用者の意向で、整理ダンスやソファが持ち込まれ、思い出の写真を飾っている居室もある。又、ベッドを使用しないで、布団の居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースには皆が見える位置に時計を掛け、日や曜日もいつでも確認出来るよう適所にカレンダーを掛けている。安全への配慮として適所に手すりを設置し、居室内もその人にあった安全な環境作りを工夫している。		